

大梅拈華山 圓通 正法寺

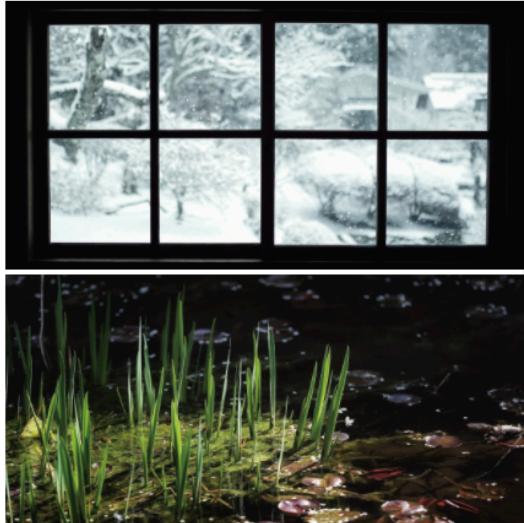
曹洞宗 元第三の本山・御開山 無底良韶禪師



大梅拈華山 圓通 正法寺
〒023-0101 岩手県奥州市水沢黒石町字正法寺129
9:00~17:00(11月~3月は16:00まで)無休

<https://shoboji.net/>

境内図



開山堂(奥州市有形文化財)



無底禪師の自画自賛画で遷化の前年延文五年（三六〇）に描かれ、岩手県内の頂相画では最も古い。この絵を素にして無底禪師御尊像が彫られています。

絹本着色、縦七二・六×幅三六・二cm（岩手県指定文化財）



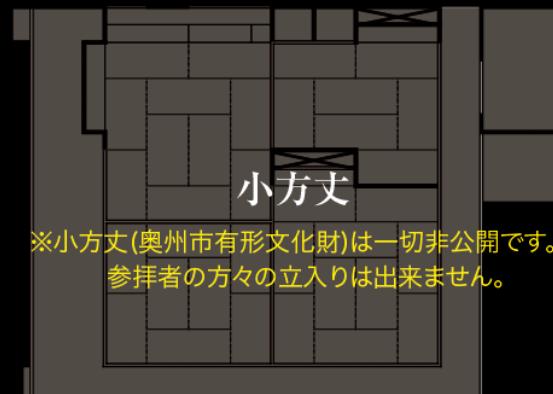
大梅拈華山圓通正法寺は『奥の正法寺』の名で広く親しまれており、南北朝時代の貞和四年（三四八）に無底良詔禪師によって開創されました。かつては水平寺（福井県）、總持寺（横浜市）とならび奥羽二州の本山として発展し、直末孫末等、門葉各寺院は五〇八カ寺とも二〇〇カ寺とも伝えられています。その格式は朝廷の給旨と總持寺の認可による確固たるものがありました。江戸時代の政策により曹洞宗本山の格式は失いましたが、仙臺伊達藩からは伽藍の復興整備と七十五石の寺領という格別の待遇を受けていました。正法寺は、現在七十三カ寺の末寺を有し、その歴史と格式にふさわしい寺宝や伽藍が数多く保存されています。

東北地方の宗門を語る際、最も重要な寺院となつております。

正法寺の由来

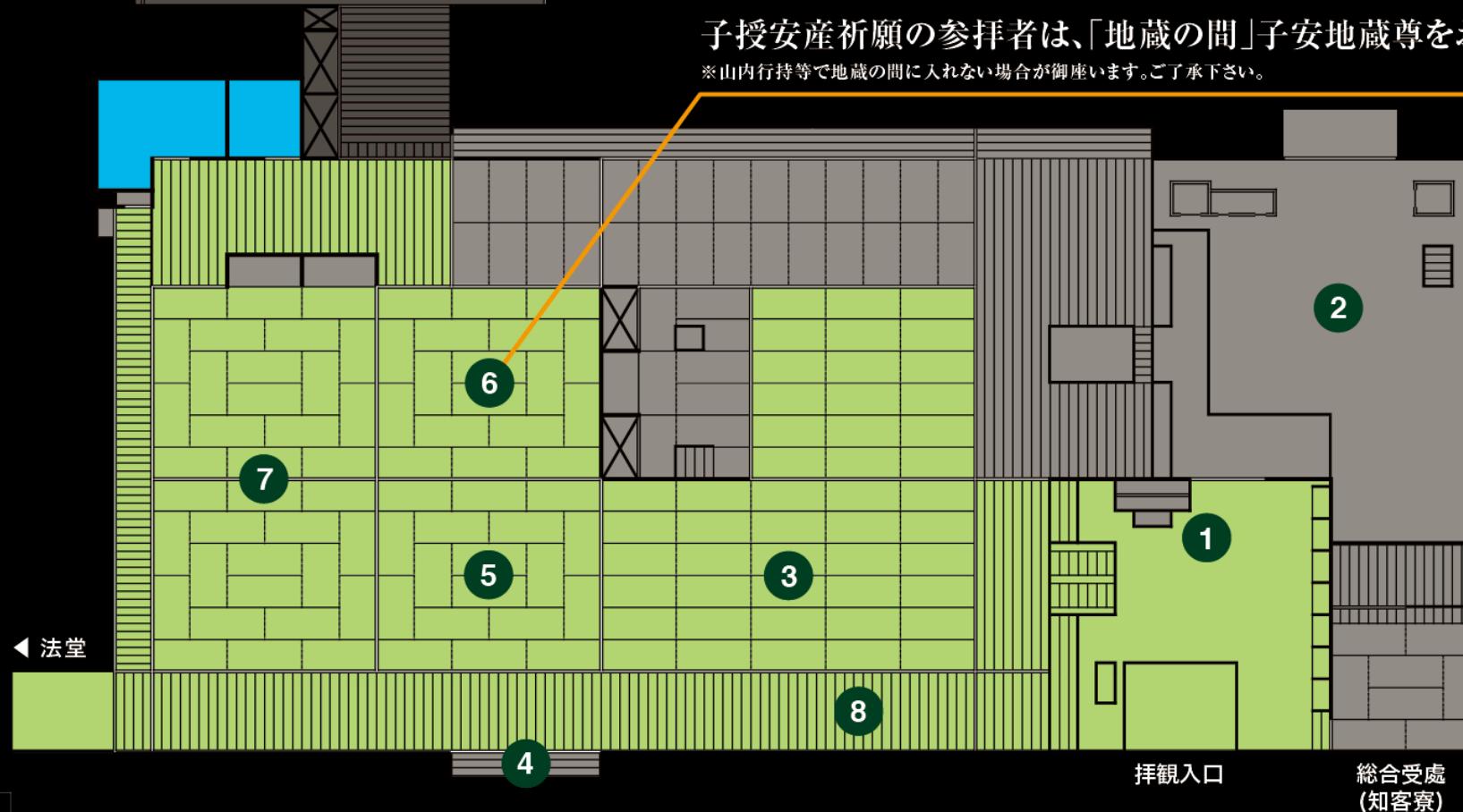
— 庫裡拝観案内図 —

- 拝観立入可能
- 東司（お手洗い）



子授安産祈願の参拝者は、「地蔵の間」子安地蔵尊をお参り下さい。

※山内行持等で地蔵の間に入れない場合が御座います。ご了承下さい。





— 法堂 (国指定重要文化財)

法堂とは住職が佛祖に代わって説法する道場のことです。堂内中央の須弥壇には御本尊の如意輪觀世音菩薩をお祀りし、朝晩の読經、年間の様々な法要もここで行われます。

入母屋造で、日本最大級の茅葺の大屋根を備え、桁行(間口)21間半(約29.6m)・梁間(奥行)12間半(約21m)・棟高(屋根の高さ)約26m・

建築面積は約769m²(約233坪)の正法寺随一大建築です。棟には伊達家の家紋、竹に雀、三引両、九曜がついております。

當山は仙臺伊達藩から寺領を受け、また建物の修復を受ける等別格の待遇を受けており、伊達家は正法寺にとって大檀越だったことを示しております。



— 惣門 (国指定重要文化財)

當山入口の門で、寛政11年(1799)の正法寺炎上の時も焼け残り、蛇紋岩の石段とともに古刹の風格を感じさせます。切妻作り、とち葺の四脚門で寛文5年(1665)仙臺大工棟梁新田作兵衛による建築です。寺院の四脚門としては岩手県最古の遺構で、建築史上大変貴重なものです。



— 庫裡・鐘樓堂 (国指定重要文化財)

鐘樓堂は江戸末期の建築で現在も定刻に時を知らせる梵鐘を一日も休むことなく撞いております。庫裡は寄棟造の約528m²(約160坪)近い大建築で、応接間、尚事寮(寺務を司る)、旧典座寮(食事を司る)など様々な機能を持つ建物です。土間と典座寮の間には韋馱尊天が祀られております。

韋馱尊天は僧・伽藍・および斎供(食物)の守護神とされ、寺院の玄関口に祀られます。朝の勤行の後や托鉢の出発・到着の際にも韋馱尊天の前で読經を行います。



熊野大権現堂 参詣道 奉納幡



— 正法寺鎮守 熊野大権現

無底良韶禪師19歳の時、紀州熊野本宮(現和歌山県)に参籠の折、夢に老人が現れ、「汝、すべからく俗を捨てて出家すべし。佛法修行は純熟す。預め佛法興隆をなす。」と、靈石一箇を受けられました。正法寺にはその靈石とともに、伽藍西側に熊野大権現が祀られ、近年多くの参詣者が来られます。毎年10月16日には熊野大権現大祭祈祷会が修行されております。

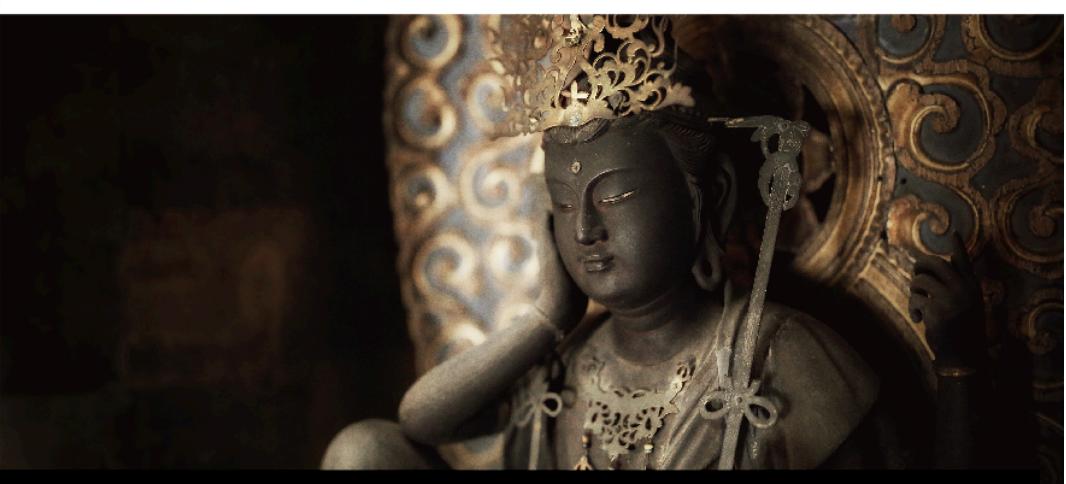


熊野大権現堂 堂内



— 釋迦三尊像 (岩手県指定文化財 法堂 西序室中)

寄木造、像高 釋迦如來53cm、文殊菩薩41cm、普賢菩薩40.8cm。本来であれば佛殿に安置される三尊佛ですが、1799年の火災後佛殿は再建されず、法堂西序室中の上段に仮安置し現在に至ります。その為、現在は法堂西の間を佛殿と呼び、毎月1日・15日の祝禱誦經はこちらで行われます。作技作風的にも明徳3年(1392)以降、10年間に亘って正法寺関係の佛像を造り続けた佛師立増の作と伝わります。



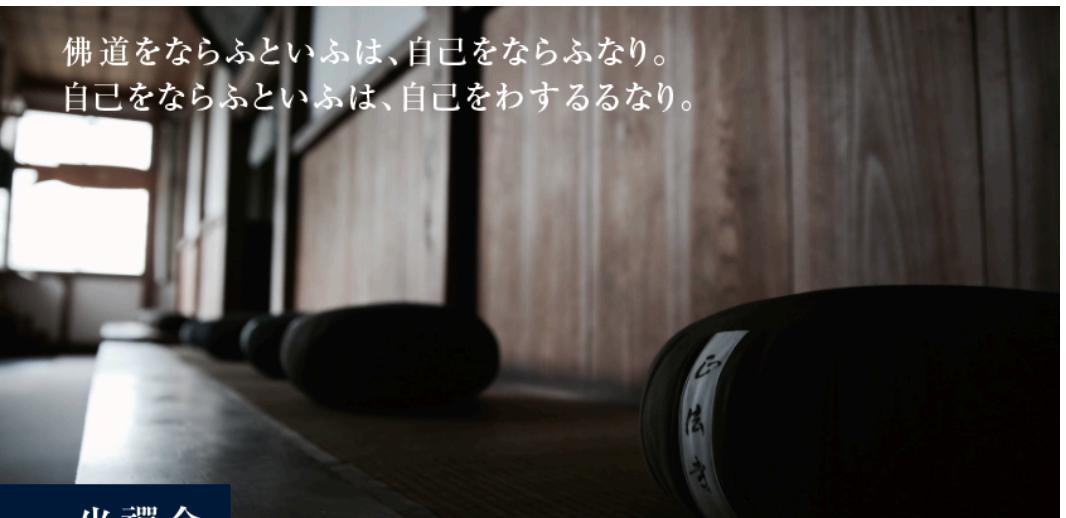
— 秘佛本尊 如意輪觀世音菩薩坐像 (岩手県指定文化財 法堂 須弥壇)

寄木造、像高48cm。法堂(本堂)の御本尊。制作年代は13世紀後半から14世紀初頭、寺伝では「春日作」と伝わります。理知的な面相の宋風の本格的な鎌倉彫刻で、秘佛とされております。普段は御前立ちの如意輪觀世音菩薩を安置し、お参り頂いております。曹洞宗大本山總持寺の前身が諸巖觀音堂であることや、正法寺の正式寺号に「圓通(觀世音菩薩のこと)」がつくことなど、觀世音菩薩は曹洞宗で大切な佛様です。毎年10月16日、熊野大権現大祭祈祷会の際、併修で御開帳致しております。



— 正法寺専門僧堂

開祖 無底良韶禪師以来、六百数十年、変わることのない参禪辨道が続けられています。かつては曹洞宗「第三の本山」としての格式を誇り、現在も曹洞宗の専門僧堂として、弘法利生を志す修行僧が日々厳しい修行を実践しております。市街地より遠く離れた深山幽谷の当地は、まさに修行に最適な「禪の修行道場」です。



— 坐禪会

正法寺では毎月第2・第4土曜日に坐禪会を行っております。経験者の方、初心者の方問わず丁寧に指導致します。また、坐禪会以外でも個人・団体・学校研修・社員研修等、坐禪を体験したい方々も対象として、開催日時のご相談を受け付けております。

法はこれ食、食はこれ法なり。是の法は前佛、後佛の受用するところなり。此の食は、法喜・禪悦の充足するところなり。



— 正法寺の精進料理

當山典座和尚がお作りした料理をお召し上がり頂き、歴史ある禪寺でゆっくりとした時間をお過ご下さい。人数は一組最大10名様までとさせて頂きます(完全予約制)。ご予約は正法寺総合受處までお電話下さい(電話予約以外は受け付けておりませんのでご注意下さい)。また、山内行持・ご法要等により、ご希望の日時でのご予約を受けられない場合が御座います。ご了承下さい。